



昨年度の『浅原防災勉強会』や『あさはらビジョンづくりワークショップ』でたくさん話し合った防災・安心安全。浅原の未来を創る会と浅原市民センターとの共催により、『チャレンジ防災 in あさはら』を5月27日（土）に開催しました。第1回の今回は、各町内会長の皆さんをはじめ、町内会の皆さん、民生委員、消防団員、居宅介護支援事業所職員、ボランティアグループの皆さん、市社会福祉協議会職員、避難所運営にあたる浅原支部の市職員など、総勢40人で学び、考え、話し合いました。

1 令和4年度の実績・令和5年度の実績の方向性

令和4年度の実績

- 6月 浅原防災勉強会の開催（避難所の模擬体験、地域防災の専門家による出前トーク、ハザードマップを眺めながらレッドゾーンに住む高齢者の避難を考え、話し合いました。）
- 9月 高齢者への防災グッズの配布と使い方講習会の開催
- 10月 市との避難行動要支援者避難支援活動に係る個人情報の取扱いに関する協定締結（災害時に一人で避難するのが難しい高齢者等の早めの避難や減災に隣近所の住民同士で取り組むための声かけ体制を今後検討していきます。）
台風14号による災害復旧（連合町内会として市長に緊急要望書を提出した。県管理の河川や道路の復旧について、市から働きかけてもらっています。）

令和5年度の実績

地域ぐるみで防災・減災を愉しく学び、町内会単位での取組につなげる『チャレンジ防災 in あさはら』を実施します。年間で9つあるイベントに参加するたびにポイントを獲得でき、ポイントが多い人の中から抽選で15人の人に記念品を贈呈します。特に、町内会単位での取組はポイントが2倍になります。



2 「避難や減災を地域でどう進めるか ～ 気付きから活動へ ～」

第1回には、県立広島大学保健福祉学部人間福祉学科の手島洋講師をお招きしました。「地域住民が力を出し合い、社会福祉や介護の専門職や行政と一緒に、生活課題を抱えた人を支援するネットワーク形成や新たな資源開発」に関する研究をされている手島先生ならではの視点で、災害発生時の住民の素直な不安の気持ちや被災に伴う生活課題、復旧・復興、そして、平時から地域として減災を見据えた取組や豊かな人間関係づくりの重要性などについてみんなで学び合うことができました。手島講師には最終回にもご登壇いただきます。（以下、先生のご発言の一部を紹介します。）

私は兵庫県社会福祉協議会の職員として阪神淡路大震災を経験しました。地震の揺れは、増幅し合って強くなる時と相殺し合って弱まる時があって、同じ神戸市内でも建物が壊滅的に潰れている筋とほとんど倒れていない筋が縞模様状に広がっており、その復興に多くの方が大変な苦勞をされていたのを目の当たりにしました。そのような経験の中から、住民の方たちがどのように災害を迎え、災害に対応し、そして、災害が起こっても被害を最小限にできるかというところを皆さんと考えたいと思います。

近年の災害を見てみると、地震や津波、線状降水帯による大雨や台風など、日本全土でさまざまな種類の災害にさらされているということは皆さんもご承知のとおりだと思います。災害の種類によって私たちの生活に与える被害も多様で、住むという基盤・経済基盤・働くことの再開、そして心と体の健康回復など、たくさんの課題があります。そうした甚大な被害をもたらす災害になるかもしれないことを知りながらも、災害時に「戸惑わずすぐ避難する」という人はごく稀で、「私は大丈夫」と言って避難されない人が大半です。

また、「先の見通しがわからない」というのも避難をためらう理由として多いです。「あと数時間すると大洪水が起きます」ということが確定していれば私たちは避難しますが、「今降っている雨はこの先弱まるのか、強まって川が溢れるのか」、「避難経路は安全なのか」ということがわからないからこそ避難を躊躇してしまいます。そして、一人暮らしの高齢者などの避難行動が難しい人にとって、避難決断のハードルはさらに上がります。

では、私たちはどう災害に備えればよいのでしょうか。
それは、**どの判断で、どういう方法で避難するのかを定期的にシミュレーションしておくことや、困りごとを日々の暮らしの中でも発信し合うことで豊かな人間関係を構築しておくことが大切だ**と思います。また、普段から孤立している人は災害時においても孤立しやすいので、そういった人をいかに地域として少なくできるかが大事ですね。



3 参加者みんなで対話

昨年の勉強会と同様に、今回も浅原全体を民生委員さんの担当地区ごとに4つに分け、そのグループで「大雨の際に避難を戸惑うかどうかとその理由」、「避難所生活で心配なこと」について話し合い、共有しました。



(保曽原・戸屋原グループ)



(本郷組グループ)



(小田原・市野グループ)



(成ヶ原・猪之迫・冷川グループ)

全体で発表された主な意見

- ・食事が十分提供されるわけではないので避難しない。
- ・今のところは、なんとなく大丈夫だと思っているが、近所の人が避難するタイミングで避難したい。
- ・水害の危険性が高い場所を把握しておきたい。
- ・小瀬川ダムの緊急放流のタイミングを早めてほしい。
- ・冷川沿いの集落では、あっという間に川の水が溢れそうになることが多いので、避難の判断が難しくハードルが高い。
- ・水平避難よりも垂直避難することが多い。
- ・家やペット、田畑のことが心配で避難するにも腰が重い。

4 手島講師のまとめ

あまり考えたく災害のことについて、皆さんで考えてくださりありがとうございました。避難は腰が重いということが皆さんの正直な思いで、川沿いはそもそも避難することが危ないというのはそのとおりだと思います。本日、私がいいなと思ったのが、「**みんなが逃げるから逃げる**」「**みんなで判断して一緒に逃げる**」ということです。**近所の人と「そうしようしよう」と話しながら避難することで、極端な判断にならないの**がいいなと思いました。私も、三原市で大雨に見舞われた時、地元の人が私の車が停まっている駐車場を見て「もうすぐこの辺は浸かると言うから車を避難させておいた方がいい」と声をかけていただいたところ、ほんの数分後にそのとおりになったという経験を思い出しました。周りの人が持っている情報は頼りになるし、集団で判断するというの大きな知恵をいただきました。

結びになりますが、一人で判断し避難することの不安やハードルの高さは皆さん自身がよく感じておられると思いますし、避難場所は市民センターだけとは限りません。ご近所同士で声を掛け合い、安全なところへ避難するために、町内会くらいの小さな単位で避難の仕組みをつくっていくことが大切です。

5 『チャレンジ防災 in あさはら』年間イベント

回次	日時	テーマ	場所
第2回	6月17日(土) 14時～	異常気象について	水と緑のまち さいき文化センター
第3回	6月20日(火) 11時～	今から取り組もう！防災講座 (百歳体操+)	浅原市民センター
第4回	7月4日(火) 10時半～ 7月28日(金) 9時～	救命講習会 普通救命講習会	浅原市民センター
第5回	8月26日(土) 16時～	防災キャンプ	浅原交流広場(旧浅原小グラウンド)
第6回	9月15日(金) 9時～	防災さんぽ(歩いてみるかい)	保曽原、戸屋原方面
第7回	11月10日(金) 10時～	備蓄品試食会(男の料理教室)	浅原市民センター
第8回	12月10日(日) 14時～	被災から学ぶ	浅原市民センター
随時	町内会ごとの防災訓練・出前トーク ※ポイント2倍！		

「町内会でどんなことをすればいいかわからない」といったお悩みは、お気軽に連合町内会または市民センターにご相談ください。